

事例 30 : がんもどき中の異物

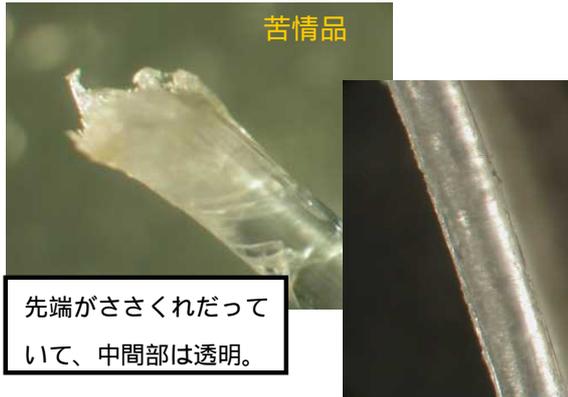
品 名 : 市販がんもどき

苦情概要 : 購入したがんもどきの中から骨またはプラスチックのような異物がでてきた。

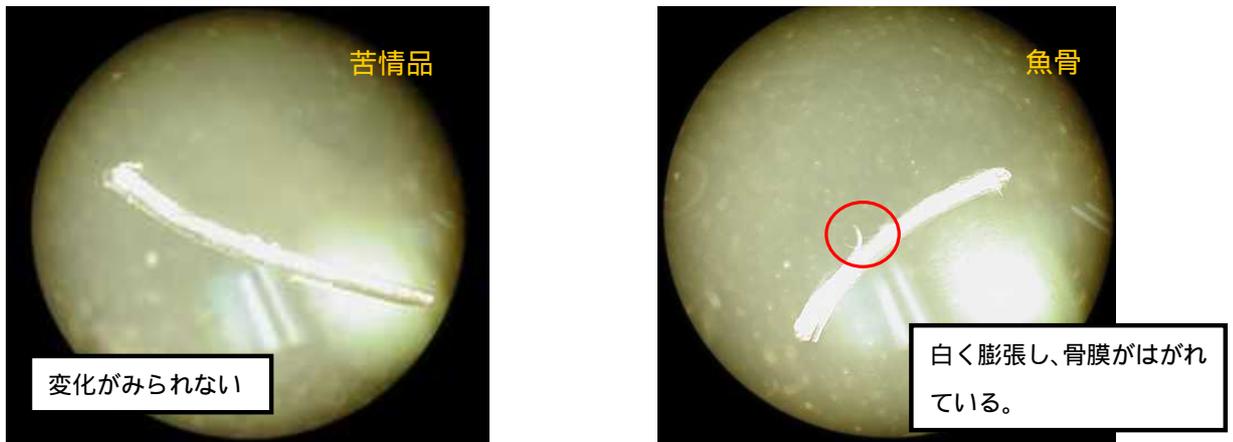
検査方法 : 苦情品と魚骨を、【 実態顕微鏡で観察、 塩酸に浸して変化を観察、 ガスバーナーで加熱して変化を観察、 ホルマリン固定して組織の観察】の方法で比較した。

肉眼像

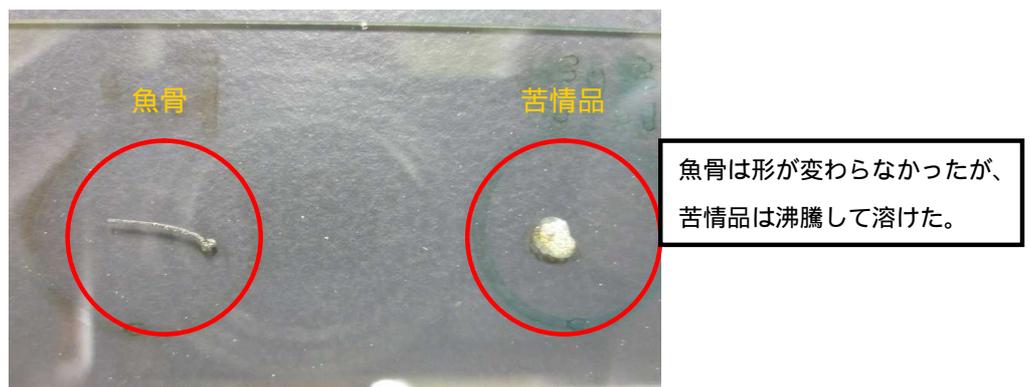
実態顕微鏡で観察



塩酸に浸して変化を観察(20分後)



ガスバーナーで加熱



組織所見

病理組織切片を作成する過程のホルマリン固定とパラフィン包埋時の熱処理により、苦情品は溶けてしまった。



合成樹脂、高分子プラスチックの可能性が高い

検査結果：熱による可塑性、白濁化、ホルマリンの架橋作用(重合体を結合して物理化学的性質を変化させる反応)、塩酸による蛋白変性作用を考慮すると、合成高分子(そのうちでも合成樹脂)もしくは半合成高分子プラスチックの可能性が高いと思われます。合成樹脂は汎用されており、苦情品の基部には接着剤様のものが付着していることから、清掃用のプラスチックブラシなどの可能性が考えられます。